

様式第4号（第10条関係）

審議会等の会議の記録

審議会等の名称	平成29年度第1回西脇市環境審議会
開催日時	平成29年5月29日（月） 午前10時～12時00分
開催場所	西脇市役所2階 特別会議室
出席委員の氏名 又は人数	横山孝雄 小林拓郎 下中秀男 藤原孝三 大隅明文 久米敏正 内橋昌子 小田晴美 城口孝子 岡本政和 笹倉克子 大崎夏子 森 一仁 築谷尚嗣 北尾 進 藤原利昭
欠席委員の氏名 又は人数	西山貞幸 生田忠之 時政良光
出席職員の職・ 氏名又は人数	（幹事） くらし安心部長 高田洋明 （事務局） 環境課長 西村幸浩 環境課長補佐 長谷川広幸 環境課 石塚千晶
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	6人
議題又は協議事項	1 開会 2 委員紹介 3 審議事項 （1）西脇市一般廃棄物処理（ごみ処理）基本計画（案）についての検討 4 その他 5 閉会

会議の記録（概要）	
発言者	
事務局	1 開会
事務局	2 委員紹介 代表委員の交代により、新たな委員4名を紹介。
事務局	・ 西脇市環境審議会規則第3条第1項の規定により、会長が会議の議長となる。
議長	○ 議事録署名人選出 本日の議事録署名人に、会長が岡本委員、城口委員の2名を指名
議長	○ 副会長選出 ・ 副委員長を務めていた委員が交代したため、新たに後任となった下中委員を指名
議長	○ 会議の公開・非公開確認 ・ 非公開内容が無いことを審議会において確認したため、本日の会議は公開とすることを決定する。
事務局	○ 傍聴定員の決定 ・ 本日の傍聴希望者は6人であることを報告
議長	・ 運営規則第4条に定める定員以上であるが、出席委員が認めたため入室を許可する。
	3 審議事項
	(1) 西脇市一般廃棄物処理（ごみ処理）基本計画（案）についての検討
	ア 各種調査結果について
	(ア) 生活系ごみ質調査及び事業系ごみ質調査【資料2】

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料 2 に基づき、事務局より内容説明
議長	<ul style="list-style-type: none"> 説明のあった内容について、委員の意見等を求める。 <p>(なし)</p>
<p>(イ) アンケート調査</p> <p>a 住民アンケート調査【資料 3 - 1】</p>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料 3 - 1 に基づき、事務局より内容説明
議長	<ul style="list-style-type: none"> 説明のあった内容について、委員の意見等を求める。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 住民アンケートの回答は高齢者が多いということで、結局 20 から 30 代の関心が低い人たちにどう働きかけるか。また、新聞がごみのステーションに出されているというのがあるが、昔は小学校や子ども会等によるいろいろな形の機関収集が盛んだったように思うが、衰退化しているのではないか。まして、雑誌や新聞紙は重いので、面倒くさくてまちなかに設置してある無料回収ボックスに出したほうが簡単ではないかという、若い人の考え方とよく似ていると思う。これをなくすためには、例えば有料化をもっと進めたり、ごみ袋の記名制なども効果があると思う。 西脇環境づくり市民会議「エコネットにしわき」で放置ごみの調査をしているが、現在はかなり減ってきているという結論になっている。その辺りを根本的に考えないといけないという感じがする。もう一つは、事業系は回収数が半分強となっているが、未回答の事業者の分類も必要ではないか。特に不法投棄などは、あまり締め付けると不法投棄が多くなってしまうという現状は出てくると思う。このあたりを何とか対策を取っていかないといけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 住民アンケートについては 70 代、60 代の方の回答が半数を超えているということで、配布のときはもう少し年代を押しなべておられたのか、性別についても同じような傾向があるかと思う。他の市町でも、回収率は大体このようなものになってしまう。要はこれが一定事実なのだと思うざるを得ないところがある。これをどう分析するのだが、母

<p>委員</p>	<p>数にそもそも偏りがあったのか、なかったのか。事業所も同様に、従業員数が1人から4人の小さいところが多い。このようなところに送って回収率が5割を超えているのはすごい。私どもが県内でやるときには20人以上とか30人以上の事業所しか対象としない。若い人については、ヒアリング等を行うと補完されると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 全体的な感想として、自分の目線でみた率直な意見も寄せられていると感じた。これを読んで、本当にその目的に合った、例えばごみを減らすにはどうしたらいいのかという建設的なご意見を見るようにしたが、これは本当に個人の意識の問題が大きく、すごく難しいというのが感想だ。 • 私が勤めていた頃に、毎月、安全点検の日というのがあり、1枚の用紙を配られて「失敗したコピーの紙の裏を使っていますか」など、具体的な項目がたくさんあり、「面倒くさいな」と思いながら毎月出していた。そのようなことを現在、どこかで実施されているのだろうか。そういうところの人間が集まって意見が聞けるといいのではないかなと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • みどり園もいろいろ発信はしているが、その効果があらわれていないような気がする。情報発信でも、ごみカレンダーや『リサイクラー』など紙ベースのものに加え、平成15年からはホームページ化しているが、一方では情報が少ないのかなという気もする。どれだけ利用されているか検証も必要で、あるいは中身をどうするかということもある。驚いたのは住民の声で、「その他の不燃物の分別が分からない」とあり、盲点だったかもしれない。みどり園は、例えば燃えるごみについては水切りなどを当初から推進しており、瓶の3色分けもだんだん厳しくしてほしいということを、何回もごみステーションパトロールでやっている。ペットボトル、容器包装も同様である。盲点として、その他の不燃物は、あえて啓発活動をやっていなかった。出すときには大変難しい問題があり、瀬戸物とか蛍光管は分かりやすいが、少し細かい出し方に関する情報発信がどうだったのかということはある。 • それから、無料回収という傾向はやはりあると思う。住民の方にとって出しやすいのではないかなということと、集団

委員

回収は一般的には子ども会、P T A、学校園単位だが、平成13年の回収量は、管内全域で5,500トンぐらいだったが、28年度実績は2,193トンで半分以下である。改善策として補助制度も併用し、回数を増やすと補助率が上がるようにしているが、減ってきている。そこが無料回収ボックスに流れているのではないか。特に紙や段ボール等は「いつでも出せます」、更には決まった日に「無料回収があります」という案内もされてきている影響があるかを感じている。

- 無料回収ボックスに雑誌、本がたくさん出され、集団回収が少なくなっているということだが、業者による回収は市としても助かるということはないか。住民から見ると、業者がどんどん持って帰ってくれたら助かるのではないかと思う。
- 全住民にアンケートを取って100%返ってくれば100%に感じるが、こういった抽出的なものは大体方向が見えたらいいのではないかと思ひ、いろいろな意見が出ていたので、「なるほどな」ということもあった。今後検討しようとしていることは、どのように資源の回収をしたら、西脇市の新しい施設がうまく稼働するかということなので、いい答えがたくさん出ているのではないかと感じている。
- 今朝、コンビニエンスストアで「袋要りますか。お持ちですか」と、店員さんに声掛けをされ、「持ってないので入れてくれ」と言ったらレジ袋をくれた。レジ袋には「できることから一つずつ。資源を大切に。レジ袋がご不要な方はお申し付けください」と書いてあり、大企業として確実に取り組まれている。
- 私の家では、紙の袋にレジ袋を詰め込んでおり、そのまま燃えるごみとして出している。また、昔からの習慣かもしれないが、新聞紙で濡れたものを巻いて出しており、我が家のやり方も考えないといけないと思っている。要は基本的小みをいかに分別するかということ、各住民の方に知ってもらわなくてはならない。それは大切だが、その方法が見えない。保健衛生推進委員会も、各地区集落に2名ずついるので、その方に方法を考えることもお願いしているが、その方や年寄りだけに教えても無理である。女の人

	<p>だけでも仕方ないため、子どもに教えようかと考えることもある。要はきちんと分別する方法を、例えば袋に名前を書くのもいい案かなと思うが、そういったことも大切だと思いつながら頑張りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無料回収でもリサイクルルートに乗っているなら、その側面は別に否定されるものではないと思う。一方で、冷蔵庫などを解体したと思われるウレタンが大量に不法破棄されていたり、無料回収ボックスの周囲にも時々ごみがあり、回収後適正に処理されたかどうか不透明である。継続的、長期に適正処分されているかどうかを見ておかないと、何でも安価なものを利用するのは気になる。住民の方の出しやすい、分別しやすい環境にするのが望ましい。集団回収のメリットは、住民の方と回収業者が契約して、決まった場所と時期でリサイクル品が集められていることである。 ・ また、住民の方から最近苦情が来るのは、ステーションからの持ち去りである。住民の情報から持ち去り主を特定し、去年の6月に訪問・説明してしばらくは収まったが、その後も持ち去りは始まっているようだ。集団回収は契約なので、その場所から持ち去る行為は問題だが、一般的なステーションはそこまでいかない。多量に抜き去る場合には抜き去り防止条例等の対策例はある。いろいろなことを念頭に置いて回収の手立てを作ると同時に、一方では適正回収や継続的な回収も望まれるのではないかと思った。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民アンケートで、ごみの減量やリサイクルにとっても関心が高いことにびっくりした。一方で、ごみの分別方法が分からない、ごみやリサイクルに関する情報をどう住民の皆さんにお伝えするのかについては工夫が必要だと思う。特に若い世代の方に情報をどう伝えるか、これから考えていく必要がある。 ・ 事業系ごみについては、業種によってごみの中身が異なると思う。いろいろなデータを業種別にクロス集計ができたらいいのではないか。業種別の回答率が分からないが、データをどう読み取るかという上でもあったほうがいいのではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> • また、資源集団回収が非常に少なくなっているが、どうすれば集団回収の回収量が上がるのか、実施団体をどう増やしていくか、補助金の交付の仕方も含めて考えていく必要がある。集団回収、資源回収は、古くから伝わってきた日本独特の方式で地域に根付いているものなので、どう育てていくのか、もう一度よく考えていく必要がある。実際にやっている子ども会やPTAの皆さん方のご意見も聞きながら、考えていく必要があると思う。 • 資源物の抜き取りはどこの市町村でも大きな問題になっていて、条例化して取り締まっているところもある。西脇ではどのような方式がいいのか、もう少し考えていかななくてはいけない。古着とか衣料品のリサイクルボックス設置、生ごみ処理機のことなどいろいろな提案もあるので、今後どのような取り組みをすれば住民の皆さんの参加を増やせるか、よく議論する必要があると感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 集団回収の回数は少なくなっているように思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 地元の小学校が4回となっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 中学は、小学校と少し時期をずらしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 私の家では新聞は集めて置いているが、段ボールは保管の際に場所を取るため、無料回収のほうが便利と思う。今年の5月の集団回収で、小学校のPTAが集めに来たときにうっかり忘れて出さなかった。いつもは声を掛けてくれるが、今回はなぜかなかったので、PTAの人でも声を掛けるのがしんどくなったのかなと思った。しっかり見ていないので、昔と違うやり方かもしれないが、PTAの方に負担がかかり過ぎても駄目だと思う。集団回収を多くするなら、働き掛け、助け合いをしないといけない。 • ごみステーションパトロールにみどり園さんが話をしに来てくれるが、昼間だとお年寄りが多い。夜だったら若い人も来るのではないか。どのようにして若い人に分別のことを理解してもらえかが課題だが、結局ごみカレンダーがすごく役立っているのではないか。ごみカレンダーはすごく読みやすくて分かりやすいので、うまく利用して若い人

事務局	<p>が理解してもらえそうな方法がないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで保健衛生推進委員会、みどり園と一緒に地区、町ごとに分別説明会に回っていた。去年からは夜に地区ごとに開催し、初めて来て良かったという意見がある反面、地区ごとになったらその地区の中心的な場所での開催になるため、行きにくいという意見もあった。今年度の協議を進めていく中で、町ごと、夜に回れたらと思っている。1つの課題として、若い方が参加されにくいということがあるので、どう周知していくか、来てもらうかは特に課題だと思う。今年度、こういった年代層をターゲットにして、来ていただくか、若い人向けにも説明もしていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の集団回収は年に数回と、本当に少ない感じがする。神戸市垂水区は月2回ぐらい、新聞紙もそれ以外の雑紙なども、結構幅広く取ってくれる。月2回ぐらいであれば、紙ごみが燃えるごみに混ざることとも少なくなるのではないか。今後取り組みを強化していくべき点になるのかなと感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども会では子どもがメインで回っているので、「6年生になったらやらなければいけない」と自覚する意味で、教育になっているかなと思う。 ・ 先ほど缶を抜き取る人がいるということで、どこかでは条例があって違反として抑えようとされていたと聞いたが、集めている人の中には、缶を集めて生活をしている人もいる。この頃学校の前で（缶の抜き取り）がよくあり、子どもの目にはどろぼうに映っている。それと集落で集める場合、私たちの時代はおもちゃとか鉄くずとか缶くずを集めると高く買ってもらえたので、ものすごく力を入れてやっていた。今はどれだけ集めようが「行政がお金をくれる」ということで、缶などが安くなった時に、そうやって行政は守ってくれたのかなと思ったり、いろいろ思いながらお手伝いをしている。 <p>(ウ) ヒアリング調査【資料4】</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料4に基づき、事務局から内容説明

議長	<ul style="list-style-type: none"> 説明のあった内容について、委員の意見等を求める。 <p>(なし)</p> <p>イ 各種調査から見た課題【資料5】</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料5に基づき、事務局から内容説明
議長	<ul style="list-style-type: none"> 説明のあった内容について、委員の意見等を求める。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 情報の周知不足について、エコネットにしわきで不法投棄の現状を知ってもらうビデオを作成した際、環境課から「これだけ不法投棄の処理費用かかっている」と資料をいただいた。 自由意見の中で、ごみ袋が高い・安いという問題が出ており、「プラごみの分別をやめたほうがいいのか」という意見もあり、結局これも情報不足が影響しているのではないかと思う。ごみ袋で一部の費用を負担していることのPRができていないのではないかと思う。費用分担や費用の使い方について、できる範囲で行政として広報していただければと思う。例えば若い人にいくら意識を持ってといっても、この忙しい不況の中では、なかなかできない。まず行政でできることとして、費用公表はできると思う。どのように出すかは検討していただくとして、そういうことをやっていただくことによって、もっと意識が変わる。特に若い人だったら、「これをすることによって税金が安くなりますよ」と、費用の幾分は安くなるはずなので、コスト意識については若い人は敏感ではないかなと思うので、もっとPRしたらどうかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの中で、「ごみ分別や減量化・資源化などに関する情報について、もっと知りたい情報はどのようなことですか」という問い掛けについて、「ごみ処理にかかっている費用」が3番目に多く、26.4%もある。先ほどのお話と連動すると思うが、やはりごみ処理にこれだけお金がかかっているのだということを住民の皆さんに伝えていく

	<p>ことは、とても大切なことだと思う。ごみを減らそうという意識が少しでも高まってくるのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 確かにコストについては、情報の施策で弱いところだったと反省している。例えば平成19年にごみ袋が有料袋になったが、内部的にはごみの減量によって電気代や修繕費に変化がある。しかし、そういう内容ではなく「ごみが減りました」とか、あるいは「分別が継続しています」、「減量継続しています」というところだったので、やはり費用の面はもう少し出す必要がある。地元の方々には、ごみ処理施設環境対策協議会というのを作っているの、補修費の内容も発信しているが、住民の方々全体には実施していない。それから、ごみ袋一つを取っても製作費や指定袋の指定店の手数料、事務の方がいただく分で、最終的な収益については資源化施策で使っているが、そういう目線での発信をできていなかったことが大きな課題だと思う。リサイクルについても、費用面をお伝えしたことは極めて少ないと思う。 • 集団回収についても、助成金制度の中で対象にしている品目は雑誌類、紙類、布類等で、空き缶やアルミ缶には助成金制度はない。アルミ缶は昔から回収されており、紙パックや容器包装、ペットボトル、びんについては法律の中で義務化されている。また、回数は3回まで、実施1回につき3,000円と定められているが、4回目、5回以上実施されたら100キロ単位の助成金がまた増えていく。もっと細かい運用をしていくべきかと思う。他の自治体では、もっと助成金が多いところもある。どの施策がいいかは検討しなければならない。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ごみを燃やすと、二酸化炭素、メタン、一酸化窒素、これら温室効果が極めて大きいものが出る。燃やさずリサイクルすると、発生を抑制する効果もある。焼却場で熱利用すると、その分マイナスになるが、いずれにしろ自治体における廃棄物の焼却処分では莫大なCO2が発生する。どのようなものを再資源化することで、温室効果ガスが地域で削減貢献できるのか、そういう観点を含めた現状把握や議論ができればと思う。行政施策だけではなく、地域、事業所、子どもたちにおいて、どのような取組を起こすか、ご

<p>委員</p>	<p>み減量やリサイクルが進むのかということを経論していかないとけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日は現状をアンケートで把握して、その課題から次に向かつて議論が始まるが、その議論の少し先に数値目標が出てくる。皆さん方自身の中で数値目標を幾らか意識してもらえればと思う。集団回収のような活動をもっと活発化すると、最終処分に行かないごみの回収率が上がっていくことが期待できる。委員の皆さん方で個別目標数値を意識していただいたら、そのことが基本計画を作るときの中身になるため、ご関心を持って見ていただけたらと思う。 議題の1から4までを振り返って、4番のその他について、今度新しくごみ処理施設ができるということで、ごみの焼却率も良く、市民の日々の生活を助ける文化度が高く、市民感情としてもみんなが応援するごみ処理施設を作りたいという気持ちでここに集まっておられると思う。先日エコネットにしわきで宝塚の市民発電をされているところへ見学に行ったとき、発電所の方から、東北大震災で大きな被害があった時に、ソーラー発電で電気は発電していたのに、近辺の人たちはその電気を全然使えなかったと聞いた。なぜかという、生活用に電気を取り出すコンセントがないからだ。このため、宝塚では災害時に近辺の人たちへすぐに電気が供給できるように、発電所に初めから電気をつなげられるようにしていると聞いた。今、西脇市もソーラー発電所ができていますが、みんなが困ったときに、安心、安全のため、みんなが使うことができるようにしてほしい。 もう一点、新しいごみ処理施設の建物は、どのように環境に配慮し、災害時に「そこへ行ったら私たちが助かる」というような施設になるのか。そういう設計をするために、いろいろな自治体の見学や勉強に行かれると思うが、この審議会の中で提案され、私たちも意見を言ったりできるのか知りたい。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大まかにはこの一般廃棄物処理計画の中で推し進め、新しいごみ処理施設での処理計画は、別途検討会が持たれると思うので、そちらに「一般廃棄物処理の委員会では、こんな方向性を議論しました」というぐらいの影響でバトン

事務局	<p>タッチができたらと思う。</p> <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ごみの減量アイデア大募集」のチラシに基づき、事務局より内容説明 <p>5 閉会</p>
問合せ先	くらし安心部環境課